

2003年9月号
No.407

りゅうぎん調査 2003年9月号

Bank of the Ryukyus'
Okinawan Economic Review

No.407



琉球銀行経済調査室
www.ryugin.co.jp

県内の景気動向

概況（7月）

景気は、持ち直しの動き強まる

消費関連では、スーパー売上高（既存店）が前年を上回る

観光関連では、入域観光客数が再び前年を上回る

7月の県内景気をみると、消費関連では、百貨店売上高は引き続き前年を下回ったものの、スーパー売上高（既存店）が、6カ月ぶりに前年を上回り、新車販売は再び前年を上回った。電気製品卸売も猛暑効果から3カ月ぶりに前年を上回った。建設関連では、公共工事請負額が4カ月ぶりに前年を下回り、主要建設会社の受注額も減少に転じたものの、建設資材出荷・売上はセメント、生コン、鋼材、建材のいずれも前年を上回った。観光関連では、入域観光客数は国内客が好調に推移し、外国客の減少幅も大きく縮小している。主要ホテルの稼働率、売上高は海外旅行からのシフトにより前年を上回った。主要観光施設入場者数は新水族館の押し上げ効果の持続により11カ月連続で前年を上回った。

総じてみると、消費関連が上向きとなり、観光関連では国内客が好調に推移し、建設関連には持ち直しの動きがみられることから、県内景気は、持ち直しの動きが強まっている。

消費関連

百貨店売上高は、引き続き他業態との競合などにより10カ月連続で前年を下回った。スーパー売上高（既存店）は、気象条件に恵まれたことから6カ月ぶりに前年を上回った。新車販売は、車両登録手続の関係から前月分のレンタカーが一部当月に計上されたことにより小型乗用車が大幅に増加し、軽乗用車も引き続き増加したことから、全体では再び前年を大きく上回った。電気製品卸売は、猛暑効果によりエアコン、冷蔵庫が大きく増加したことを主因に3カ月ぶりに前年を上回った。

建設関連

公共工事請負額は、「市町村」の発注工事は増加したものの「国」、「県」が減少したことから4カ月ぶりに前年を下回った。県内主要建設会社の受注額は、公共、民間工事とも減少したことから3カ月ぶりに前年を下回った。建設資材出荷・売上では、セメント、生コン、鋼材、建材のいずれも前年を上回った。

観光関連

入域観光客数は、SARSの影響による海外旅行の沖縄方面への切り換えや、クルーズ観光再開による外国客のマイナス幅の縮小から前年を上回った。県内主要ホテルは、ファミリー客を中心とする海外旅行からのシフト組を取り込んだことから、稼働率、売上高ともに前年を上回った。主要観光施設入場者数は、新水族館の押し上げ効果の持続により11カ月連続で前年を上回った。ゴルフ場は、主に天候要因から入場者数、売上高ともに前年を上回った。

雇用関連

新規求人数（6月）は前年同月比38.5%増と12カ月連続で前年を上回った。有効求人倍率（6月、季調値）は前月より0.01ポイント上昇した。完全失業率は7.6%で前年同月より0.8ポイント改善した。

その他

消費者物価（6月、総合）は保健医療、教育を除き、食料、被服及び履物など広範な品目において前年割れが続いていることから2カ月連続で減少した。企業倒産は、件数が15件で5カ月ぶりに前年を下回ったものの、負債総額は前年を上回った。

りゅうぎん調査（2003年7月）

増減率（%）

	前年同月比	前年同期比 （2003.5 - 2003.7）
1.消費関連		
(1)百貨店（金額）	3.3	3.8
(2)スーパー（既存店）（金額）	1.3	1.7
(3)新車販売（台数）	20.3	5.6
(4)電気製品卸売（金額）	17.7	4.9
2.建設関連		
(1)公共工事請負額（金額）	12.4	13.9
(2)建築着工床面積（m ² ）	(6月) 87.0	(4-6月) 19.0
(3)新設住宅着工戸数（戸）	(6月) 48.2	(4-6月) 9.2
(4)建設受注額（金額）	33.4	19.5
(5)セメント（トン数）	13.7	1.1
(6)生コン（m ³ ）	9.4	3.4
(7)鋼材（金額）	29.4	12.6
(8)建材（金額）	1.0	1.0
3.観光関連		
(1)入域観光客数（人数）	13.8	4.9
(2)県内主要ホテル稼働率	(前年同月差) 8.2 (実数) 82.6	(前年同期差) 2.6 (実数) 74.1
(3) " 売上高（金額）	12.2	2.6
(4)観光施設入場者数（人数）	45.5	28.0
(5)ゴルフ場入場者数（人数）	16.5	4.9
(6) " 売上高（金額）	9.7	0.9
4.その他		
(1)県内新規求人数（人数）	(6月) 38.5	25.1
(2)有効求人倍率（季調値）	(6月) (実数) 0.35	(実数) 0.34
(3)消費者物価指数（総合）	(6月) 0.5	(4-6月) 0.3
(4)企業倒産件数（件数）	(前年同月差) 4	(前年同期差) 1.3
(5)電力使用量（百万Kw）	(6月) 3.0	(4-6月) 2.0
(6)広告収入（県内マスコミ）（金額）	(6月) 2.8	(4-6月) 2.4

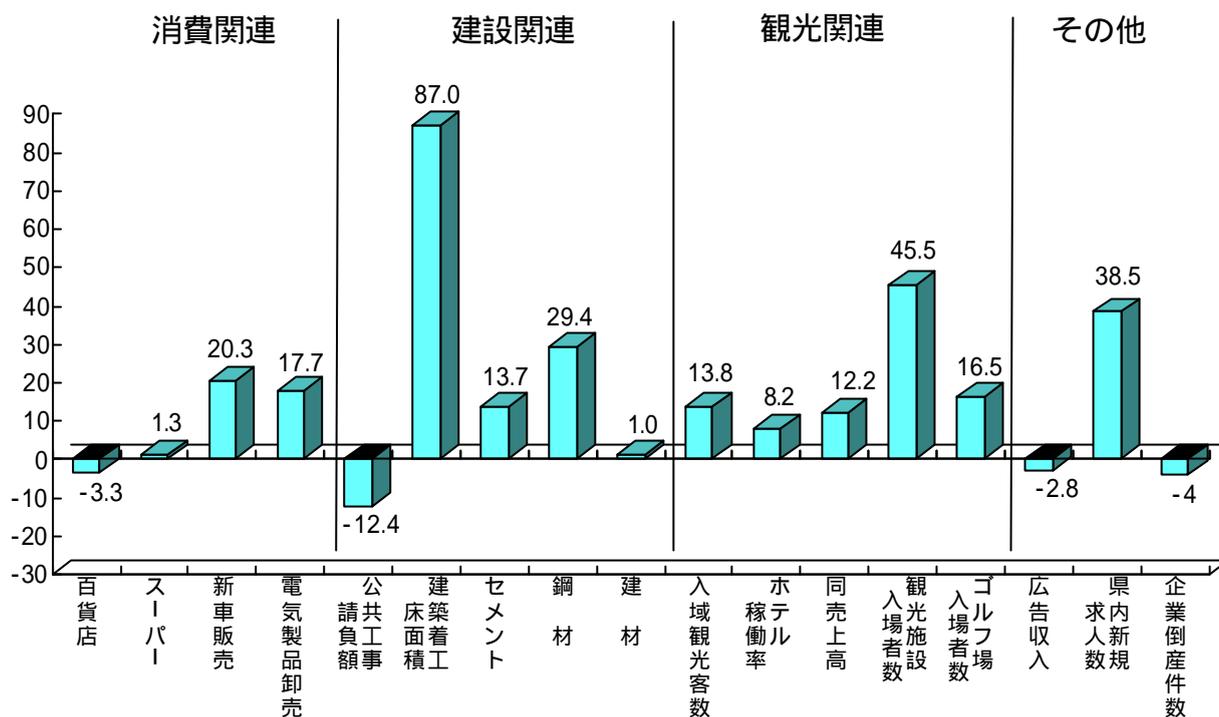
（注1）公共工事請負額は西日本建設業保証株式会社沖縄支店調べ。建築着工床面積、新設住宅着工戸数は国土交通省調べ。入域観光客数、県内新規求人数、有効求人倍率、消費者物価指数は沖縄県調べ。企業倒産件数は東京商工リサーチ沖縄支店調べ。Pは速報値。

（注2）企業倒産件数の前年同期差は、月平均件数の前年同期差。

（注3）ホテルは、2002年9月より調査先を19ホテルから18ホテルとした。

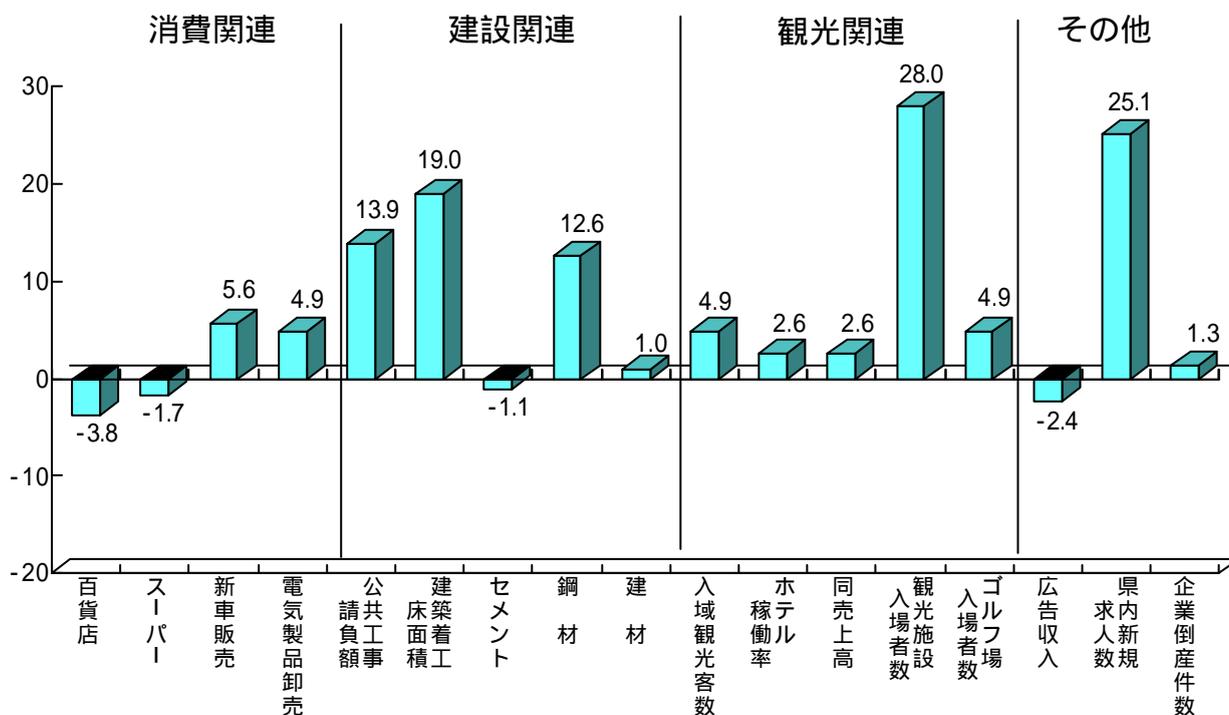
（注4）鋼材、建材は2003年4月より一部データの見直しを行った。

りゅうぎん調査 (2003年07月)



(注) 建築着工床面積、広告収入、県内新規求人数は6月分。数値は前年比(%)。ホテル稼働率(%ポイント)、企業倒産件数(件)は前年差。

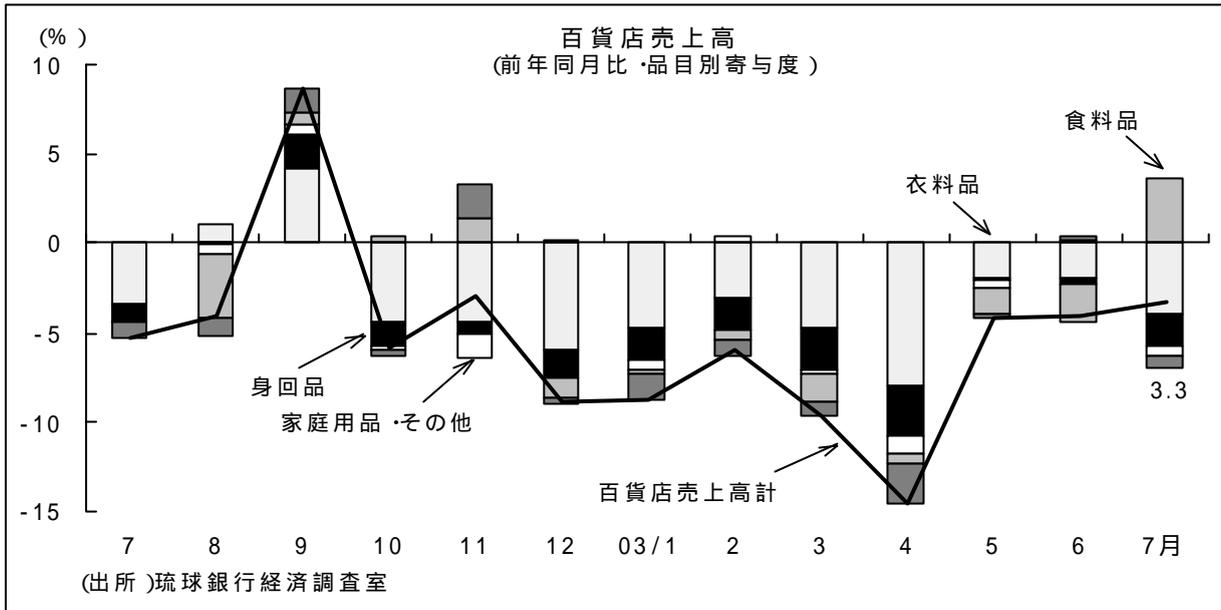
りゅうぎん調査 (2003年05月～2003年07月)



(注) 建築着工床面積、広告収入、県内新規求人数は4～6月分。数値は前年比(%)。ホテル稼働率(%ポイント)は前年差。企業倒産件数(件)は月平均の前年差。

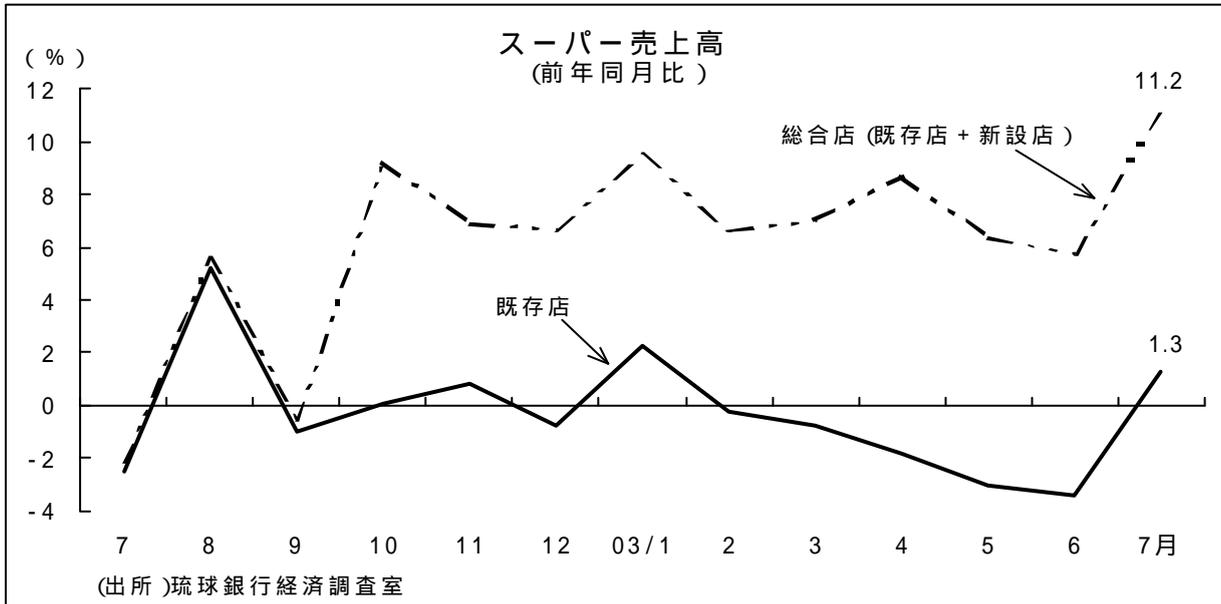
1. 消費関連

(1) 百貨店売上高：10カ月連続で前年を下回る



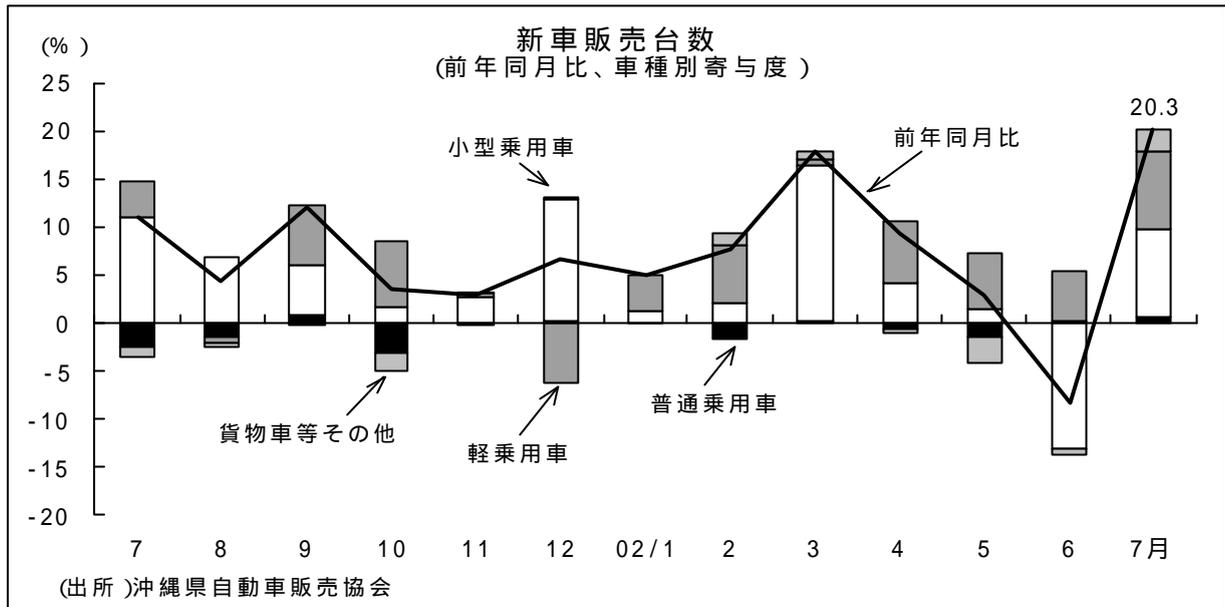
- 百貨店売上高は、前年同月比 3.3% の減少となり、10 カ月連続で前年を下回った。
- 品目別にみると、食料品 (同 16.3% 増) は旧盆の時期が前年に比べ早かったため、中元商戦が7月に繰り上がったことから大きく伸びたものの、衣料品 (同 8.5% 減)、身の回り品 (同 15.8% 減)、家庭用品 (同 16.3% 減) などが振るわなかった。

(2) スーパー売上高：既存店ベースで6カ月ぶりに前年を上回る



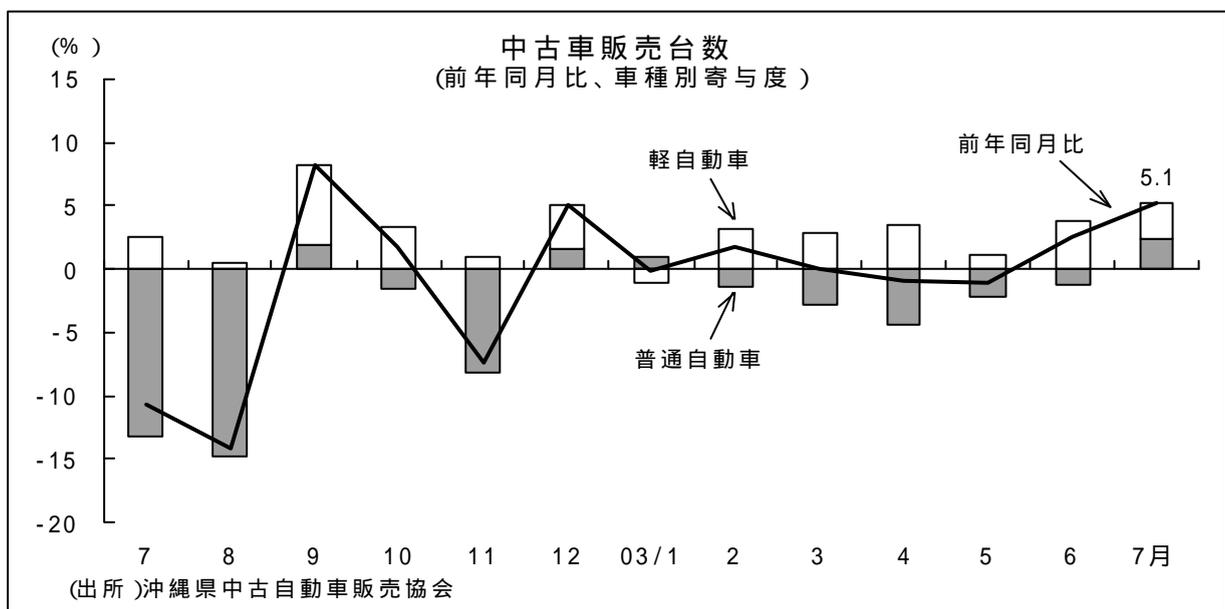
- スーパー売上高 (既存店ベース) は、昨年2個襲来した台風が今年はなかったことや猛暑が続いたことなどの気象条件に恵まれ、前年同月比 1.3% 増と6カ月ぶりの増加となった。
- 衣料品は、水着や浴衣、Tシャツといった夏物商品やかりゆしウエアが好調だったことから前年を上回った。食料品もビール、発泡酒の飲料品などが好調であった。
- スーパー売上高 (総合店ベース) は、同 11.2% の増加となり、10 カ月連続で前年を上回った。
- 百貨店とスーパーの売上高合計 (既存店ベース) は、同 0.8% の増加となり、6 カ月ぶりに前年を上回った。

(3) 新車販売：再び前年を上回る



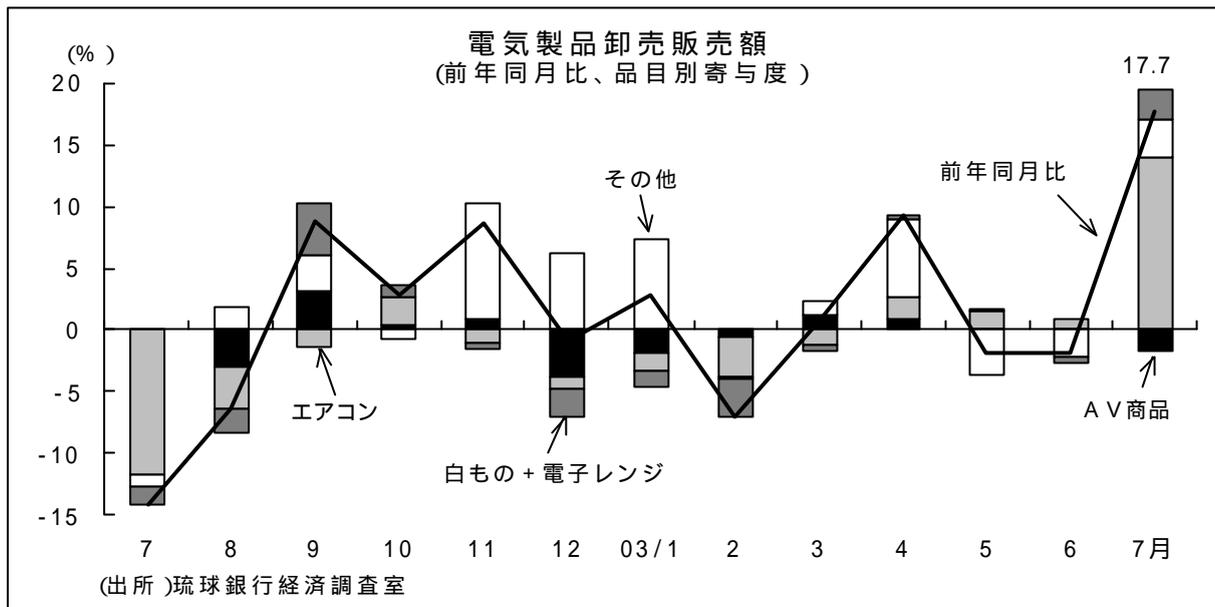
- 新車販売台数は4,551台と前年同月比20.3%の増加となり、再び前年を上回った。車両登録手続の関係から前月分のレンタカーが一部当月に計上されたことにより小型乗用車を中心に大きく伸びた。
- 普通自動車(登録車)は、2,416台(前年同月比18.3%増)で、うち普通乗用車は、275台(同3.9%増)、小型乗用車は、2,141台(同19.5%増)であった。軽自動車(届出車)は、1,937台(同23.1%増)で、うち軽乗用車は、1,580台(同23.9%増)となった。

(4) 中古自動車販売：2カ月連続で前年を上回る



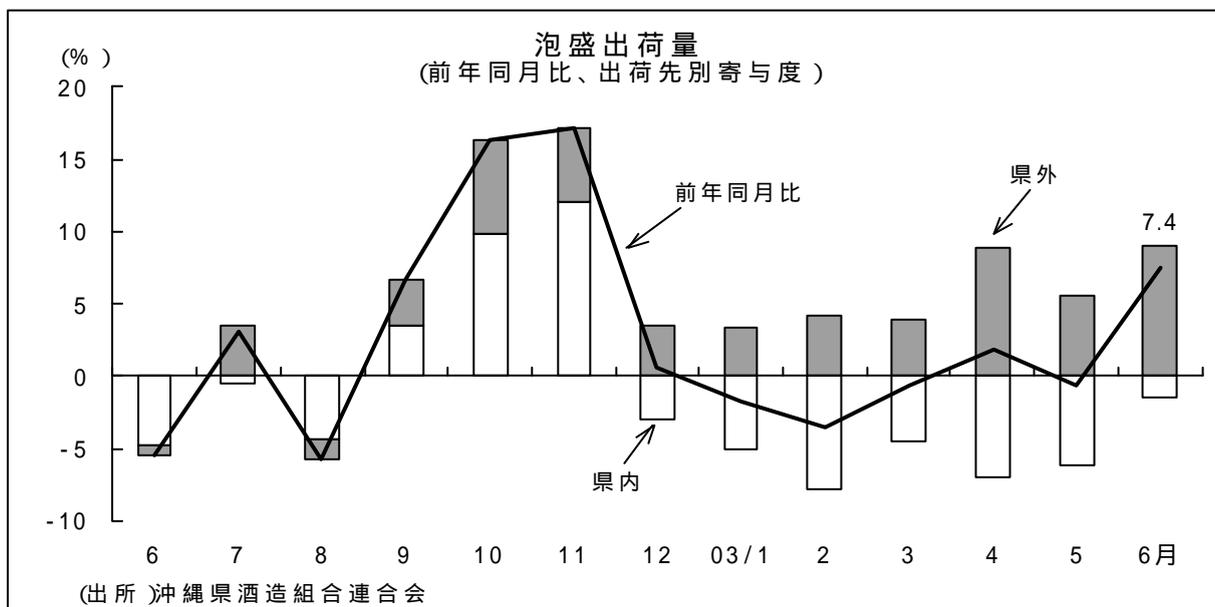
- 中古自動車の登録状況(普通自動車および軽自動車の合計)は、前年同月比5.1%増となり2カ月連続で増加した。

(5) 電気製品卸売販売額：3カ月ぶりに前年を上回る



- 電気製品卸売販売額は、前年同月比17.7%増となり3カ月ぶりに前年を上回った。主要家電は、猛暑効果によりエアコンや冷蔵庫が大きく伸びたことから同31.2%増と前年を上回った。その他電気製品も同5.9%と前年を上回った。
- 主要家電の内訳をみると、エアコン(同131.4%増)、冷蔵庫(同28.4%増)、オーディオ(同46.1%増)は前年を大きく上回った。一方、テレビ(同19.0%減)、ビデオ(同24.3%減)は秋の新商品投入を前に動きが鈍く前年を下回った。洗濯機(同13.6%減)や電子レンジ(同16.6%減)も前年を下回った。

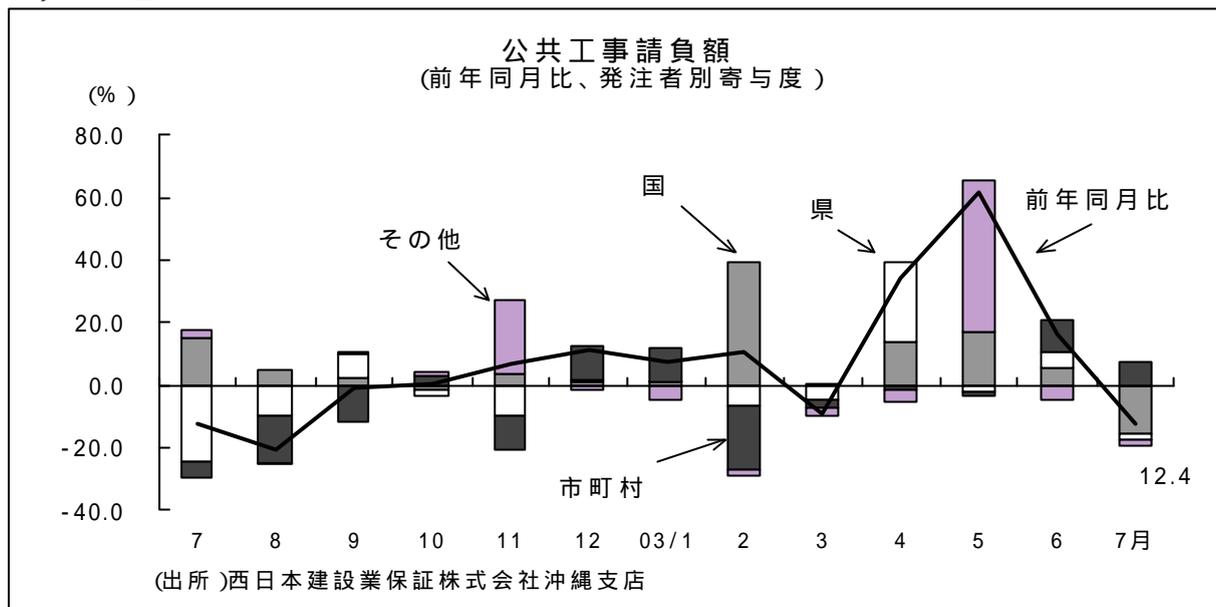
(6) 泡盛出荷量：再び前年を上回る



- 泡盛出荷量(6月)は、前年同月比7.4%の増加となった。県内出荷量は同1.7%減と7カ月連続減少したが、県外出荷量は同86.2%の大幅増加となった。

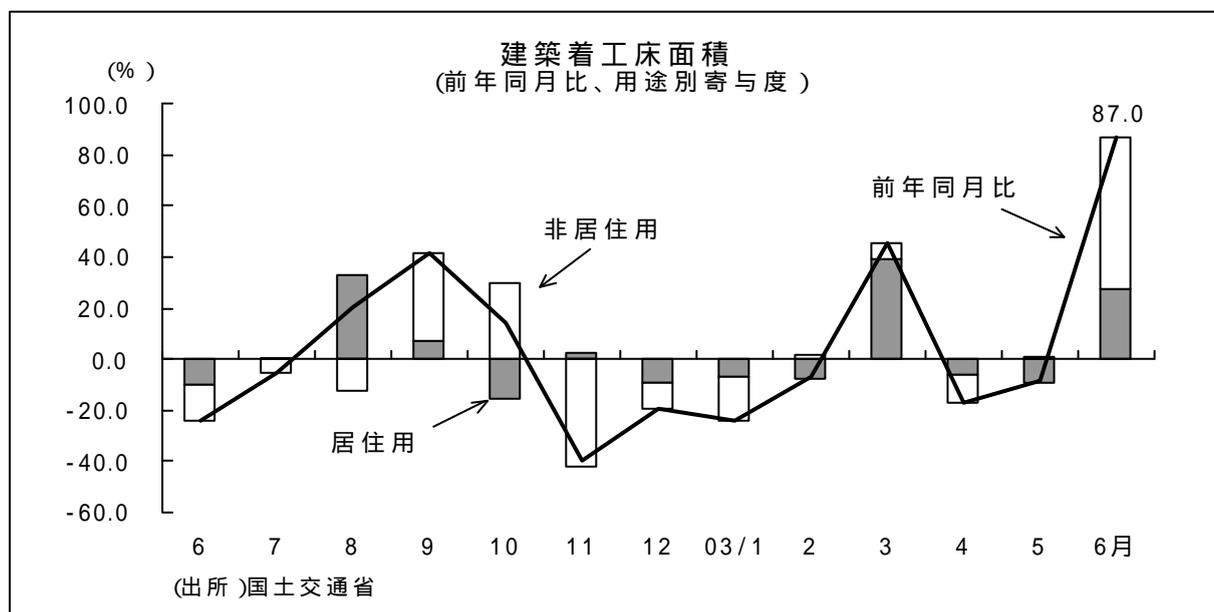
2. 建設関連

(1) 公共工事請負額：4カ月ぶりに前年を下回る



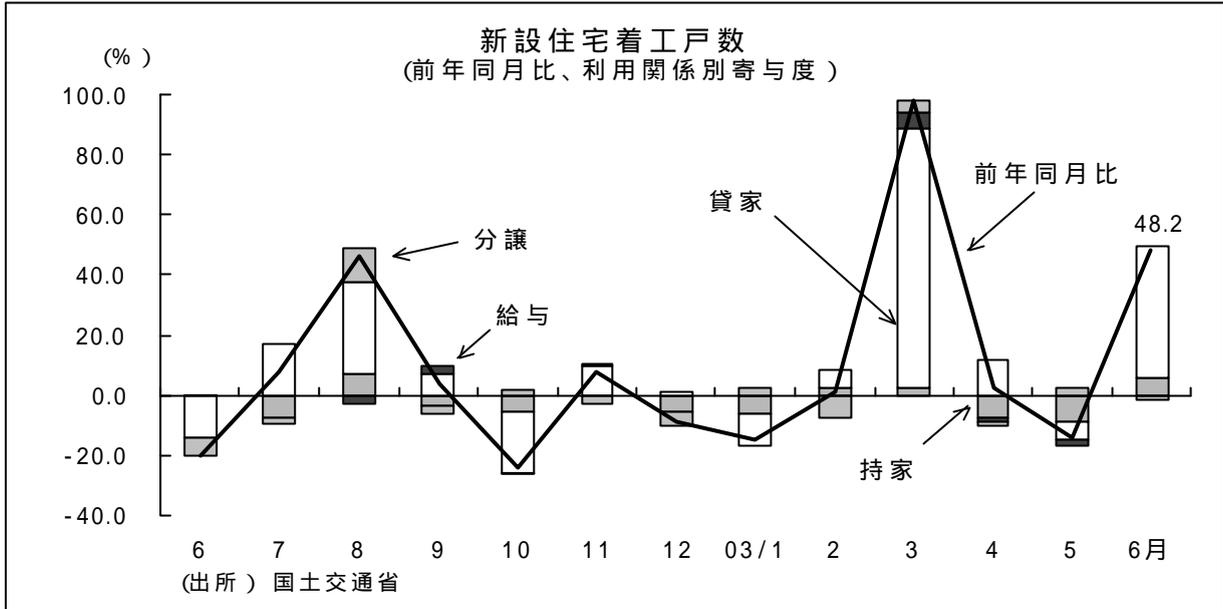
- ・ 公共工事請負額は、176億75百万円で前年同月比12.4%減と4カ月ぶりに減少した。
- ・ 発注者別では、「市町村」(同30.6%増)が増加したものの、「国」(同42.9%減)「県」(同6.2%減)が減少した。
- ・ 大型工事としては、キャンプ瑞慶覧での建築・土木工事や久志浄水場設備工事等があった。

(2) 建築着工床面積：3カ月ぶりに前年を上回る



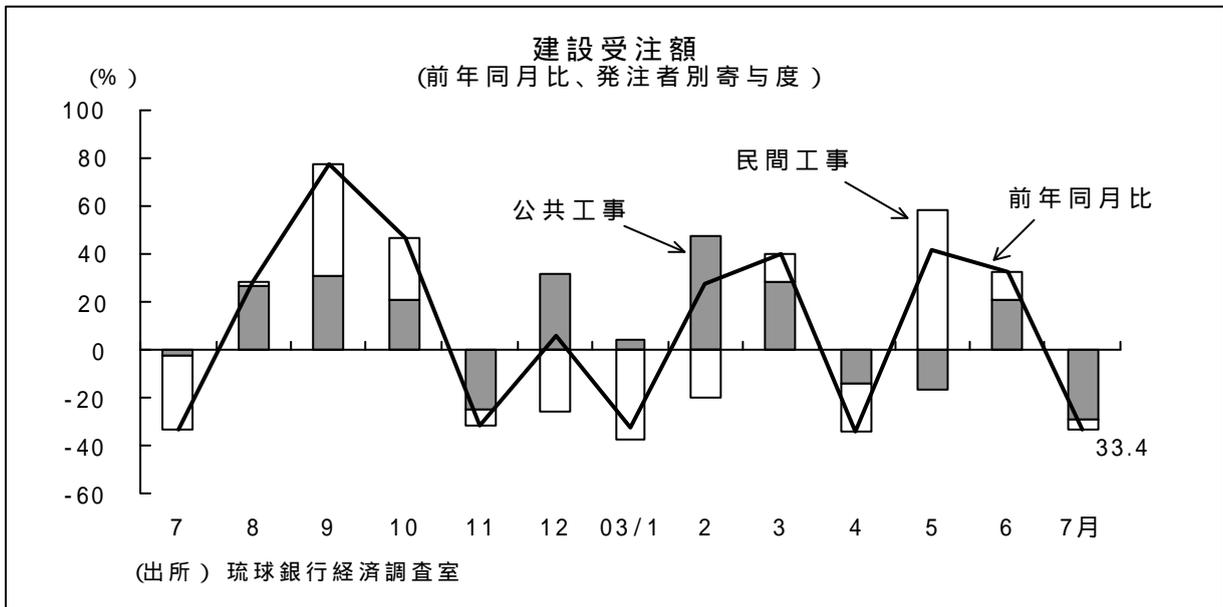
- ・ 建築着工床面積(6月)は、24万9,581㎡で前年同月比87.0%増と大幅に増加した。
- ・ 用途別では、「居住用」(同44.5%増)「非居住用」(同155.8%増)ともに高い伸びとなった。
- ・ 建築着工床面積を用途別(大分類)にみると、居住専用(10万2,442㎡)が最も大きく、次いで公務用(3万8,558㎡)教育・学習支援業用(2万6,617㎡)卸・小売業用(2万6,105㎡)等の順であった。

(3) 新設住宅着工戸数：再び前年を上回る



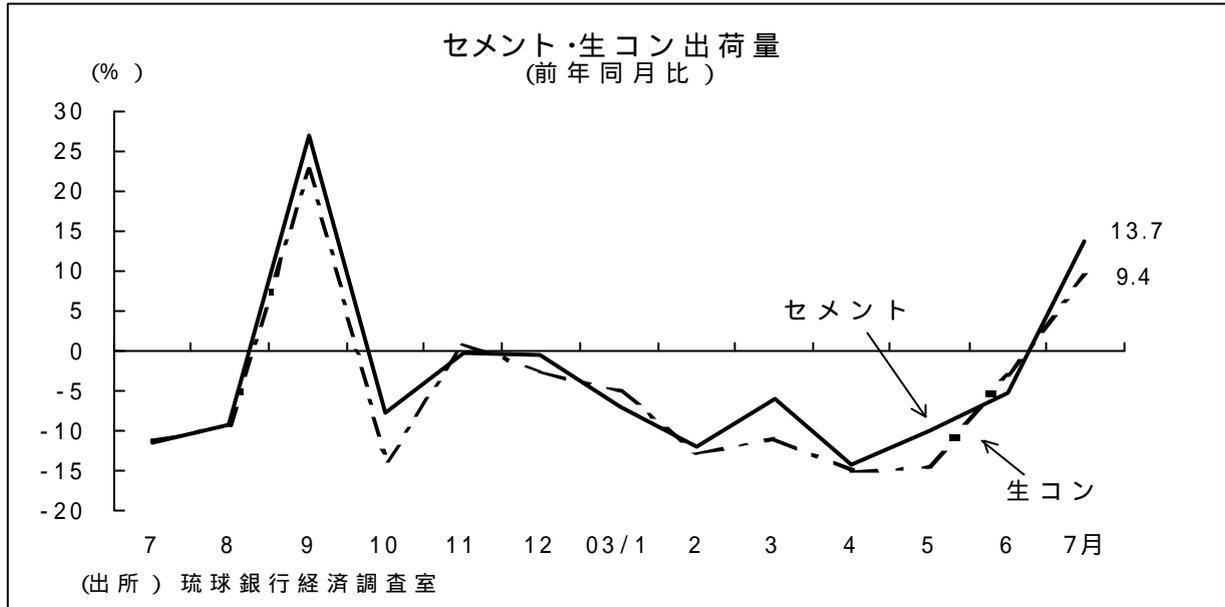
- ・ 新設住宅着工戸数（6月）は、1,326戸で前年同月比48.2%増と大幅に増加した。
- ・ 利用関係別では、分譲（同25.0%減）が減少したものの、貸家（同72.9%増）が高い伸びとなり、持家（同16.1%増）も3カ月ぶりに増加した。
- ・ 都市別（市部）では、沖縄市（同22戸減）で減少したものの、浦添市（同130戸増）、宜野湾市（同70戸増）、那覇市（同54戸増）で貸家を中心に増加した。

(4) 建設受注額：3カ月ぶりに前年を下回る



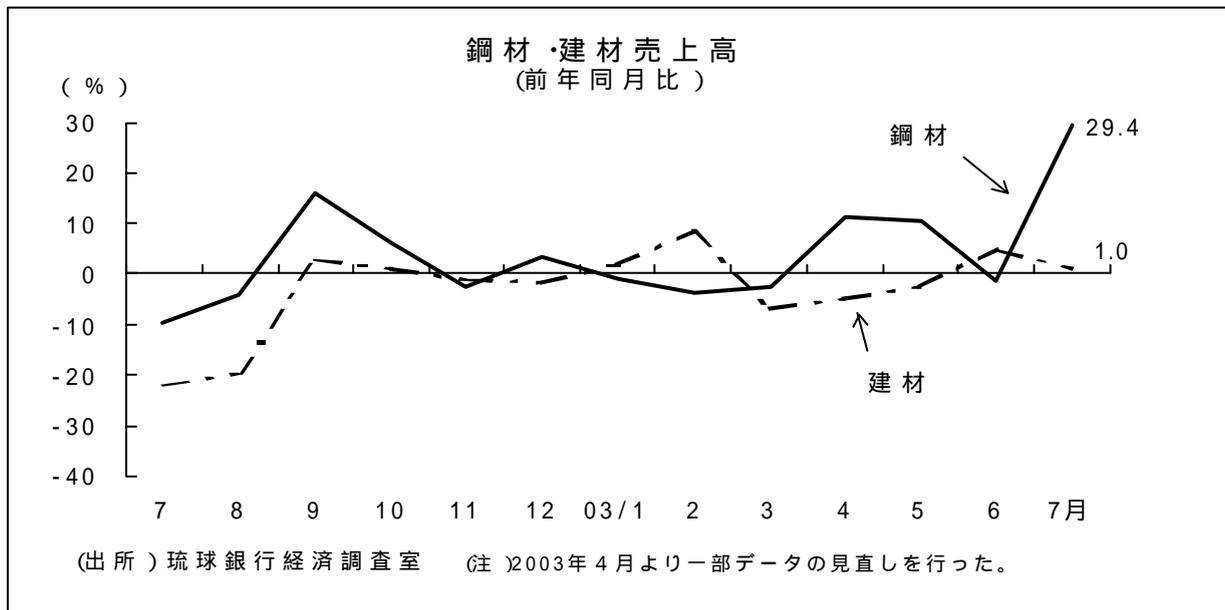
- ・ 建設受注額（調査先建設会社：20社）は、前年同月比33.4%減と3カ月ぶりに減少した。
- ・ 発注者別では、公共工事（同71.7%減）が大幅に減少したほか、民間工事（同6.8%減）も減少した。
- ・ 主な工事物件では、医療・介護施設やレジャー・遊技場、基地関連工事等の受注があった。

(5) セメント・生コン：セメント・生コンともに前年を上回る



- ・ セメント出荷量は、7万8,974 トンで前年同月比 13.7%増となり 10 カ月ぶりに前年を上回った。
- ・ 生コン出荷量は、17 万 1,842 立方メートルで前年同月比 9.4%増と 8 カ月ぶりに前年を上回った。
- ・ 生コン出荷量を出荷先別にみると、民間工事向けが住宅やホテル等を主体に増加し、公共工事向けでは、トンネルや公営住宅、橋梁、港湾、基地関連工事等で増加した。

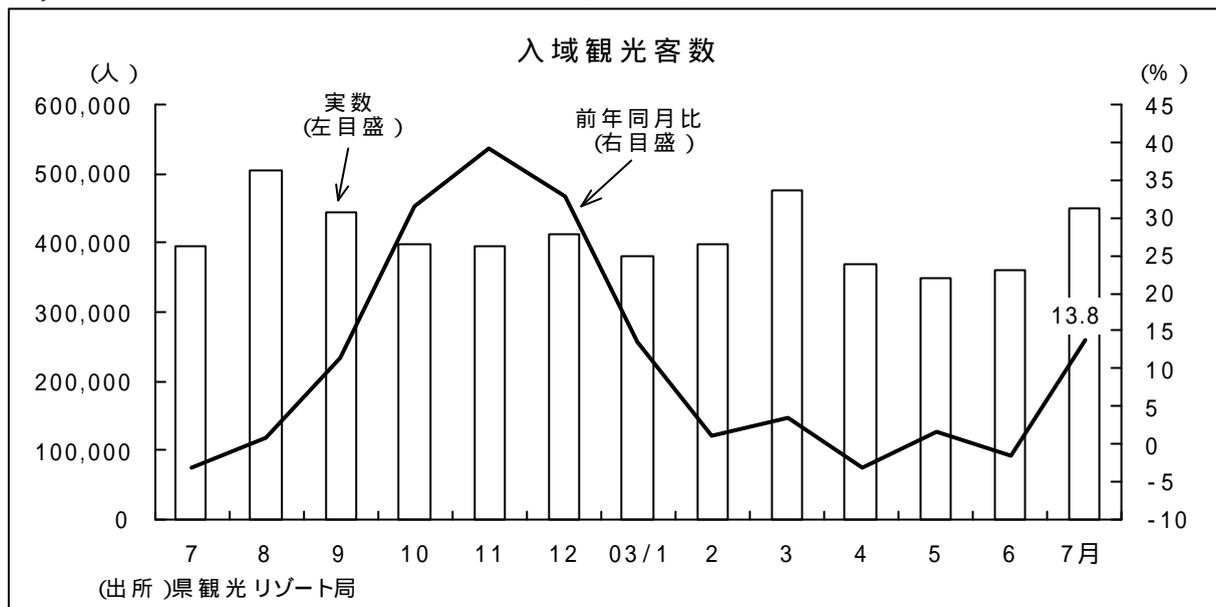
(6) 鋼材・建材：鋼材は大幅に増加し、建材は小幅な増加にとどまる



- ・ 鋼材売上高は、前年同月比 29.4%増となった。原料スクラップのアジアへの輸出急増による原料不足から市中価格が上昇しているほか、出荷量も基地関連工事や橋梁工事、公営団地等に堅調な動きがみられたこと、また、価格上昇に伴う手当買いもみられたこと等から高い伸びとなった。
- ・ 建材売上高は、前年同月比 1.0%の増加となった。シックハウス対策の強化に伴う一部資材の駆け込み需要や資材価格の上昇、また、中南部地区を中心とした貸家建設の増加等により前年を上回ったものの、戸建住宅建設が低調なことから増加幅は小幅にとどまった。

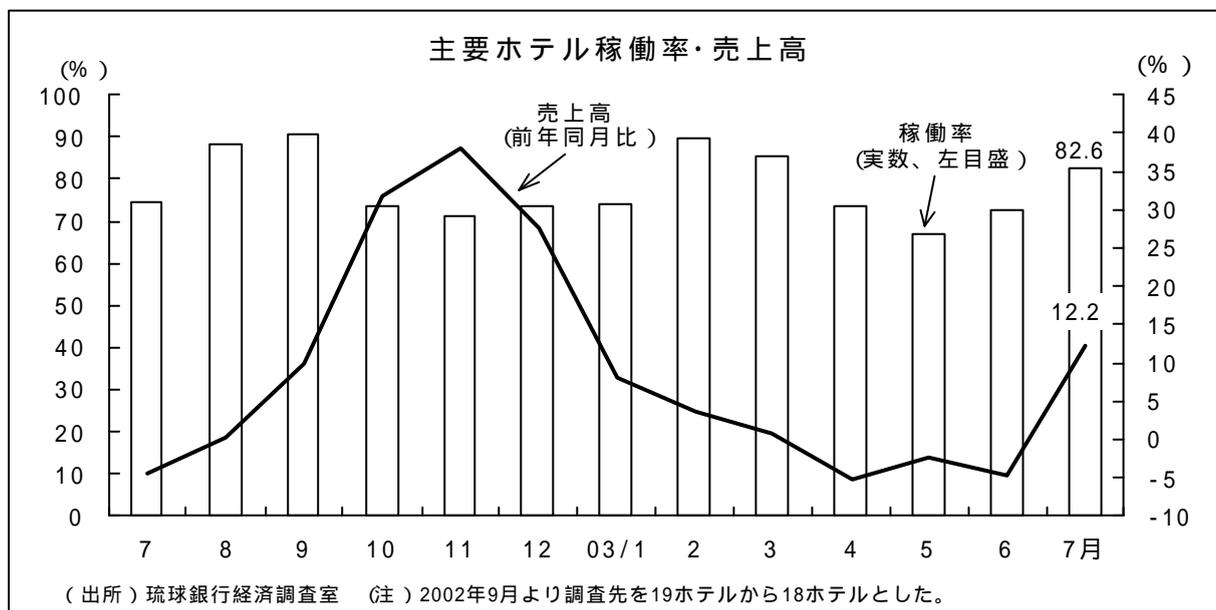
3. 観光関連

(1) 入域観光客数：国内客の伸長により再び前年を上回る



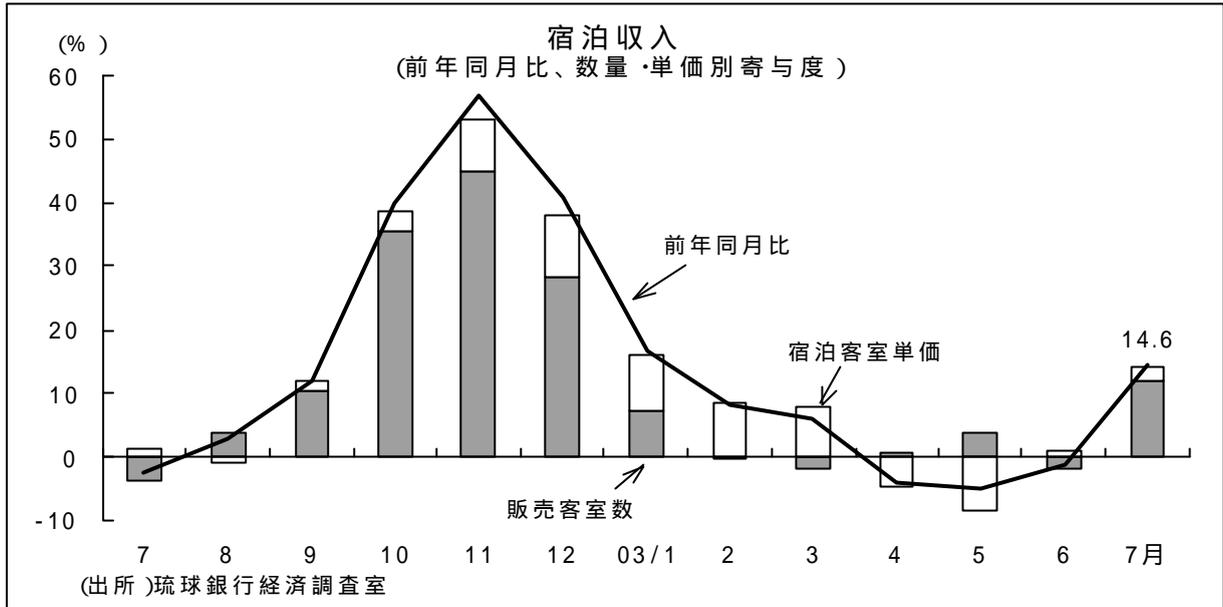
- 入域観光客数は、45万1,300人で前年同月比13.8%増と再び前年を上回った。国内客(同14.7%増)はSARSにより海外旅行を控えた旅行者が替わりに沖縄方面を選好したことなどから好調に推移した。外国客(同8.4%減)もSARSにより中断していた台湾からのクルーズ船の再開などがありマイナス幅が大きく縮小した。
- 8月20日までの国内航空入域客数をみると、前年同期比4.7%増と好調を維持している。

(2) 主要ホテル：稼働率、売上高とも前年を上回る



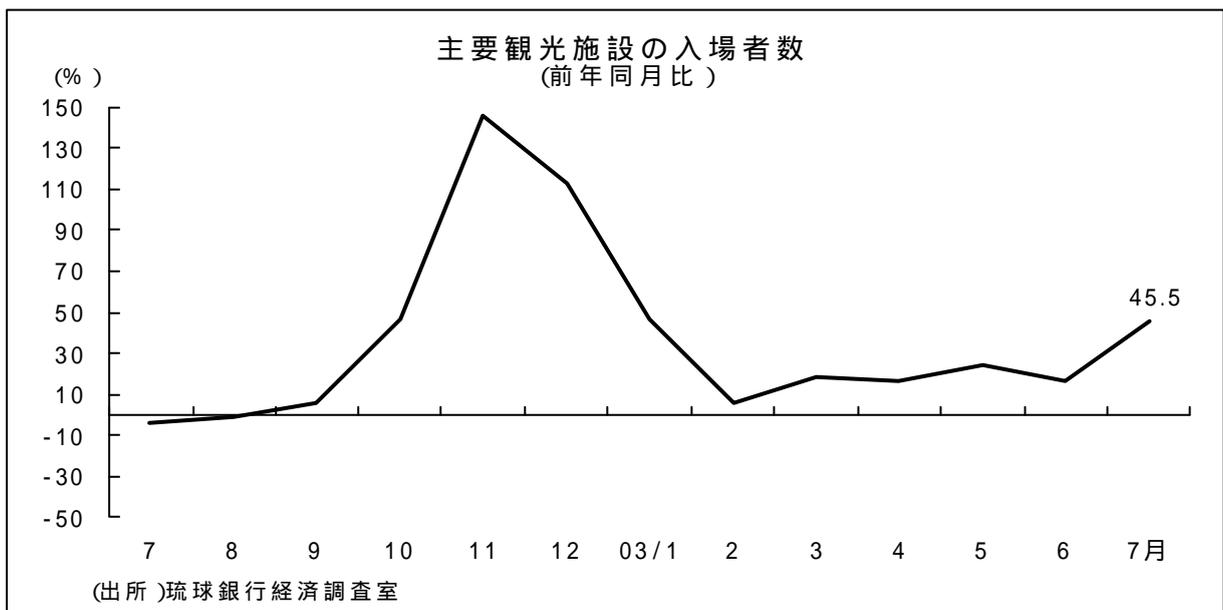
- 主要ホテルの客室稼働率は、ファミリーを中心に海外から国内旅行へシフトした旅行者の取り込みに成功したことから82.6%と前年同月比8.2ポイントの大幅増加となった。売上高も12.2%の増加となった。
- 那覇市内大手ホテルの稼働率は、74.9%で同6.7ポイント増加した。売上高は同11.3%の増加となった。
- リゾート型ホテルの稼働率は、87.6%で同9.1ポイント増加した。売上高は同12.4%の増加となった。

(3) 主要ホテルの宿泊収入：販売客室数、宿泊客室単価とも前年を上回る



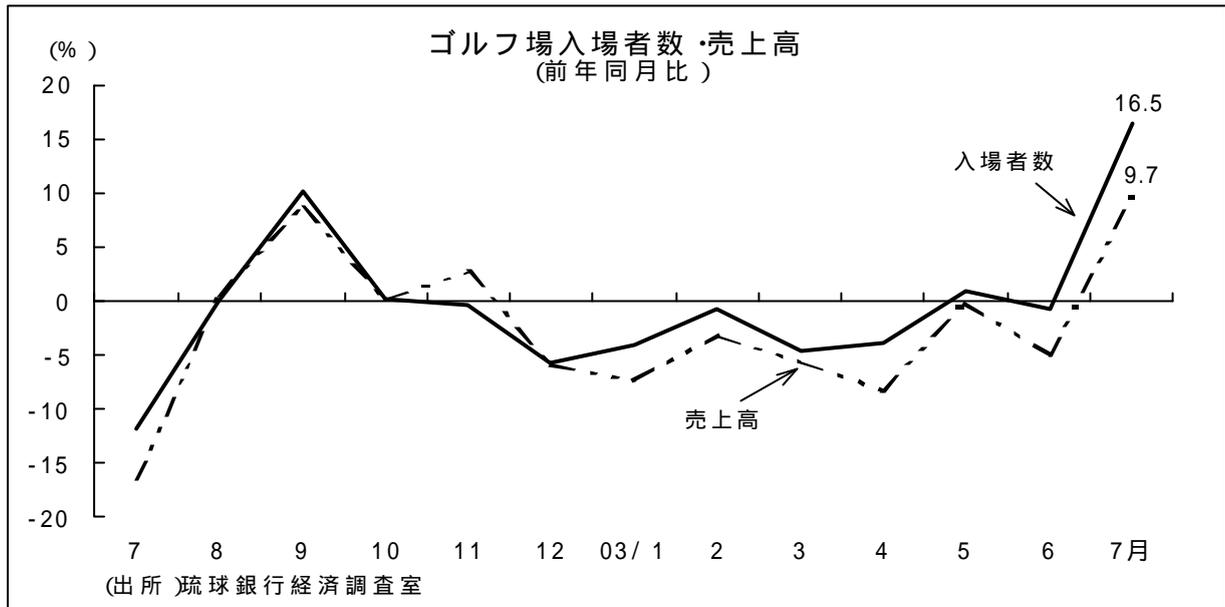
- ・ 主要ホテル売上高のうち宿泊収入は、販売客室数（数量要因） 宿泊客室単価（単価要因）とも伸び、全体では前年同月比 14.6%増と2ケタの伸びとなった。

(4) 主要観光施設入場者数：引き続き前年を上回る



- ・ 主要観光施設の入場者数は、前年同月比 45.5%増と新水族館の押し上げ効果が持続していることもあり 11 カ月連続の増加となった。ただし、台湾客の減少の影響等から入場者の前年割れが続いている施設もあり、全体としては、まだ厳しい状況にある。

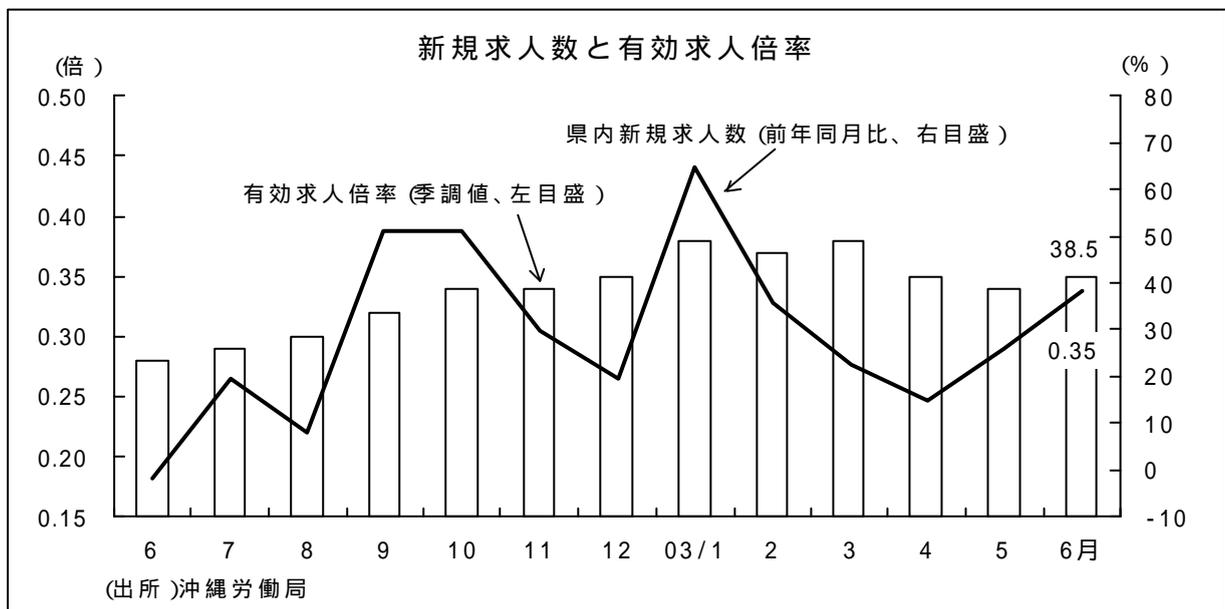
(5) 主要ゴルフ場稼働状況：入場者、売上高とも大幅増加



- ・ 主要ゴルフ場の入場者数は、台風の襲来がなかったことなど天候要因に恵まれたことから県内客を中心としたプレーヤーの増加により前年同月比 16.5%増となった。売上高も同 9.7%増と前年を上回った。

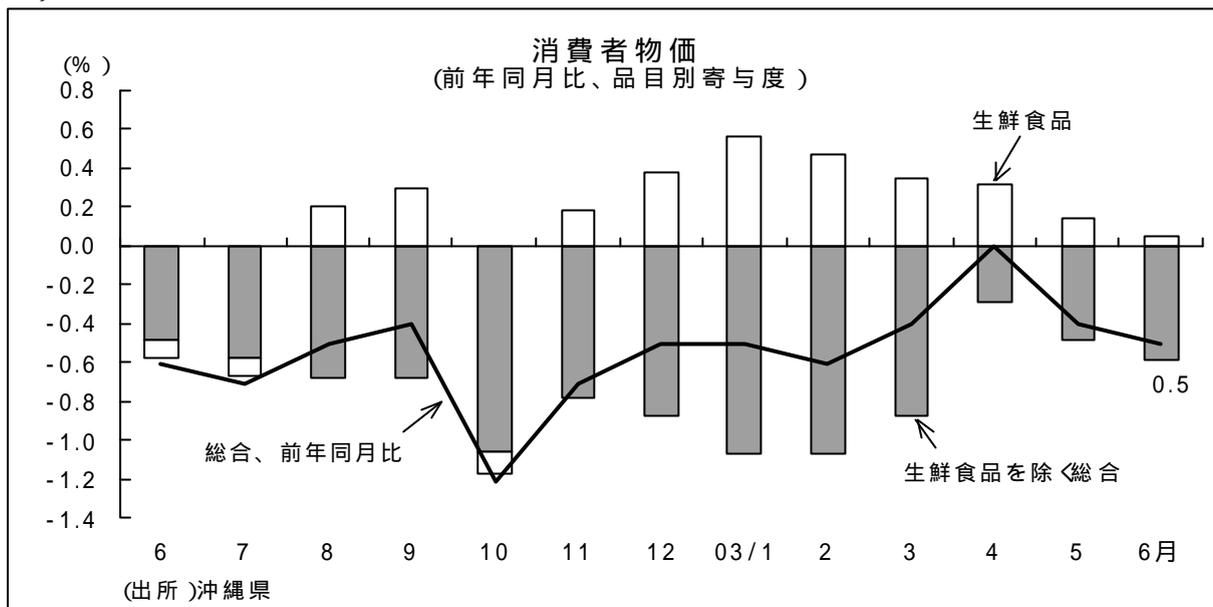
4. その他

(1) 雇用関連：新規求人数は 12 カ月連続で前年を上回る



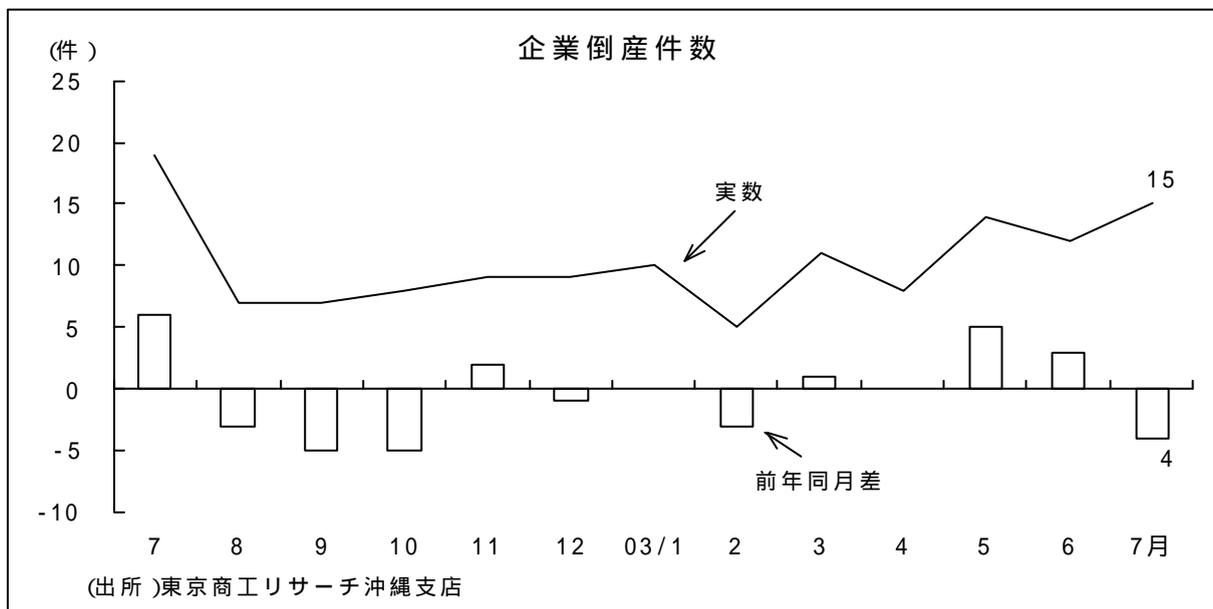
- ・ 有効求人倍率は、0.35 倍となり、前月から 0.01 ポイント上昇した。新規求人数は、前年同月比 38.5%増となり 12 カ月連続で前年を上回った。製造業、金融・保険業、運輸・通信業などで増加した。
- ・ 労働力人口は、63 万 5 千人で、前年同月比 1.0%増加した。就業者数は 58 万 6 千人で、前年同月比 1.7%の増加となった。完全失業者数は、4 万 8 千人で、前年同月比 9.4%減となった。完全失業率は 7.6%で、前年同月より 0.8 ポイント改善した。

(2) 消費者物価：前年を下回る



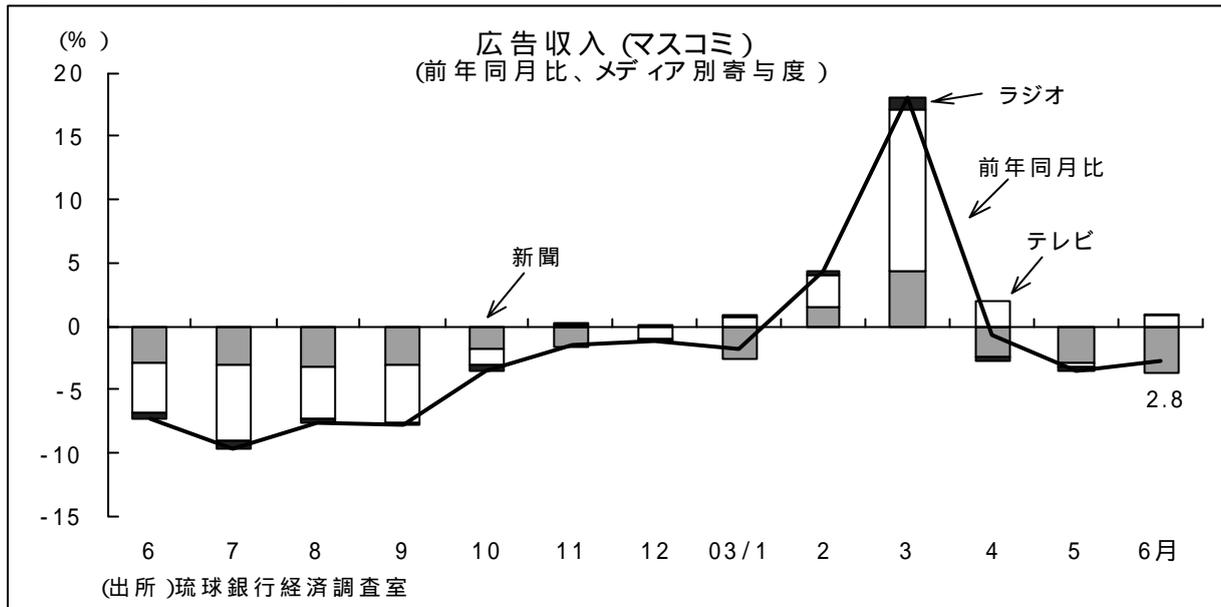
- ・ 消費者物価指数総合（6月）は、前年同月比0.5%下落した。
- ・ 品目別に前年同月の動きをみると、食料（同0.9%下落）、被服及び履物（同3.5%下落）、光熱・水道（同1.1%下落）、教養娯楽（同0.8%下落）、家具・家事用品（同1.8%下落）等が引き続き下落した。
- ・ 一方、保健医療（同4.5%上昇）と教育（同1.9%上昇）は引き続き上昇した。

(3) 企業倒産：件数、負債総額ともに前年を上回る



- ・ 倒産件数は15件となり、前年同月を4件下回った。前年同月を下回るのは2月以来5カ月ぶり。業種別にみると、建設業が13件（前年同月差2件増）、小売業、サービス業がそれぞれ1件となった。
- ・ 特別保証で借入れをした後に倒産した企業数は8件で、98年10月の実施以降の累計件数は307件となった。
- ・ 負債総額は負債額が30億1,700万円となり、前年同月比53.5%増加した。

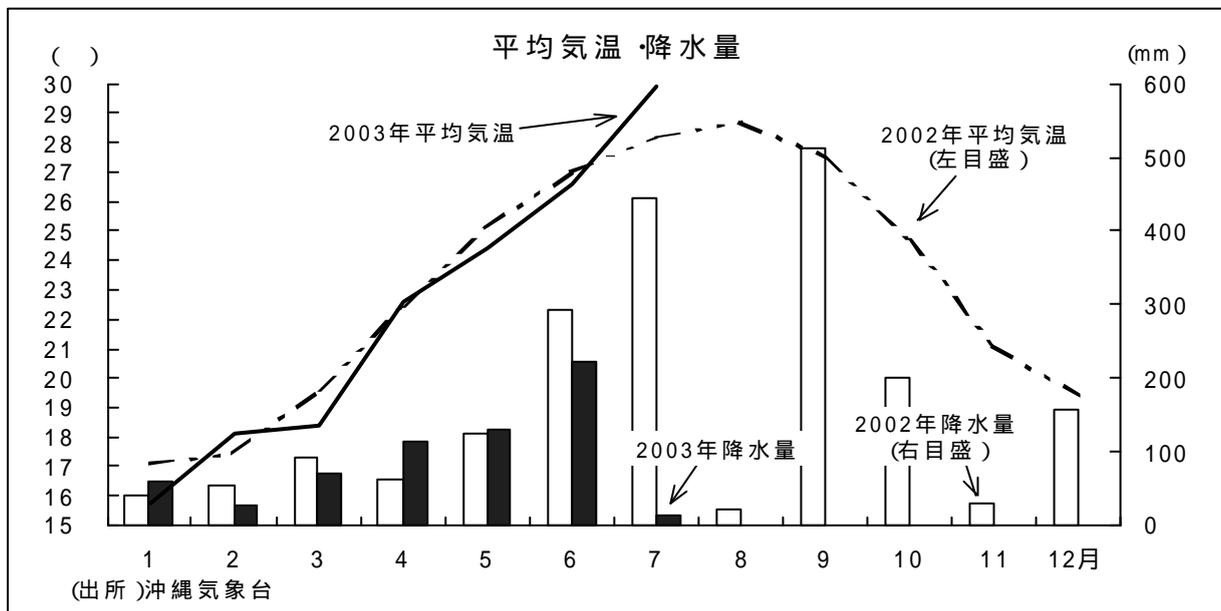
(4) 広告収入(マスコミ): 3カ月連続で前年を下回る



- 6月の広告収入(マスコミ)は、テレビおよびラジオは増加に転じたものの、新聞が引き続き減少したことから、全体では2.8%減と3カ月連続で前年を下回った。

(参考)

気象(那覇)



- 7月の平均気温は29.9 と前年同月(28.2)より1.7度高くなった。7月の降水量は、台風の襲来がなかったことなどから13.5mmと前年同月(445.0mm)より激減した。